Japan Soaring Club

2022 年 06 月 11 日

各位

公益社団法人日本グライダークラブ
理事長　稲垣　政文

2022 年グライダー世界選手権参加支援事業・グライダーアクロ世界選手権参加支援事業のための募集
特定寄付金についてのお願い

2022 年夏にハンガリーで開催される第 37 回グライダー世界選手権に当クラブ会員の丸山毅氏、同時期に同じくフランスで開催される第 12 回グライダーアクロ世界選手権に当クラブ会員の酒井隆氏が、それぞれ公益社団法人日本滑空協会、一般財団法人日本航空協会の推薦を受けて日本代表選手として参加します。詳細につきましては別紙をご覧ください。

世界選手権に日本代表選手が参加することは、グライダーというスポーツの普及、発展のためには大変意義のあることです。しかし、世界選手権へ選手として出場するには、別紙にもありますように事前練習を含めて多額の費用がかかり、費用のすべてを個人で負担するのはかなり厳しいものがあります。
そこで、公益社団法人である当クラブでは、世界選手権参加支援事業として、上記 2 名の世界選手権参加について、広く皆様からのご寄付を募り、世界選手権への選手参加の費用の一部として使用させていただきたいと考えております。

秋頃に報告会を開催予定です（状況に応じて、リアルとオンラインのハイブリッド予定）。

ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

ご案内ホームページ
http://www.glider.jp/info/2022wgc-wagc-kifu/

なお、当クラブは公益社団法人の税額控除対象法人の認定を受けており、ご寄付には税の減免処置が適用されます。税額控除の場合、確定申告を実施することで年間の寄付額から 2,000 円を除いた額の 40%の税額控除を受ける事が可能です。
※算出時の年間の寄付金額 は「同年の総所得金額等の 40%」を限度額とする。
※税額控除額は「その年の所得税額の 25%」を限度額とする。

2022 年 06 月 11 日

各位

公益社団法人日本グライダークラブ
理事長　稲垣　政文

2022 年度(令和 4 年度)募集特定寄付金の募集に関わる募金目論見書
2022 年グライダー世界選手権参加支援事業・グライダーアクロ世界選手権参加支援事業のための募集特定寄付金についてのお願い

寄付金等取扱規程第 3 条、第 7 条に基づく募集特定寄付金について、令和 4 年度の募集種類及び目論見書内容は概要以下のとおりとする。

記 1

1. 募集名称：　2022 年第 37 回グライダー世界選手権参加支援事業に関わる寄付金の募集
2. 募集総額：　3,000,000 円
3. 募集期間：　2022 年 6 月 11 日(土)から 2022 年 8 月 31 日(水)までとする
4. 募集対象：　本事業に賛同する個人、法人、法人でない団体
5. 募集理由：　世界大会への選手・チーム・クルーとしての積極的な参加・協力のため
6. 資金使途：　受け入れた寄付金は全額 2022 年第 37 回グライダー世界選手権参加支援費用とする
7. 振込口座：　みずほ銀行　新橋支店　(普)　1027085　(社)日本グライダークラブ
8. 申込方法：　下記フォームに所定の事項をご記入の上、お振り込みください（クラブ員は引落可)。
   「2022 年第 37 回グライダー世界選手権参加支援事業募集特定寄付金申込フォーム」
   リンク先　https://bit.ly/wgc2022maruyama
9. 寄付者氏名の公表等：　当法人のホームページに団体名、法人名（氏名)、個人名、及び金額を掲載する（匿名希望の場合は、その旨の申し出を受ける)
10. 大会ホームページ：　https://wgc2022.hu/
11. 添付資料：　(別紙 1) 丸山毅選手（TEAM MARU）紹介　TEAMMARU の挑戦 2022

記 2

1. 募集名称：　2022 年第 24 回グライダーアクロ世界選手権参加支援事業に関わる寄付金の募集
2. 募集総額：　3,000,000 円
3. 募集期間：　2022 年 6 月 11 日(土)から 2022 年 8 月 31 日(水)までとする
4. 募集対象：　本事業に賛同する個人、法人、法人でない団体
5. 募集理由：　世界大会への選手・チーム・クルーとしての積極的な参加・協力のため
6. 資金使途：　受け入れた寄付金は全額 2022 年第 24 回グライダーアクロ世界選手権参加支援費用とする
7. 振込口座：　みずほ銀行　新橋支店　(普)　1027085　(社)日本グライダークラブ
8. 申込方法：　下記に所定の事項をご記入の上、お振り込みください（クラブ員は引落可)。
   「2022 年第 24 回グライダーアクロ世界選手権参加支援事業募集特定寄付金申込フォーム」
   リンク先　https://bit.ly/wgac2022sakai
9. 寄付者氏名の公表等：　当法人のホームページに団体名、法人名（氏名)、個人名、及び金額を掲載する（匿名希望の場合は、その旨の申し出を受ける)
10. 大会ホームページ：　https://www.wgac2022.net/
11. 添付資料：　(別紙 2) 酒井隆選手紹介　グライダー曲技飛行世界一への挑戦

以上

（別紙 1）

TEAM MARU の挑戦 2022

目標は世界のトップ 10 入り！
アラフィフパイロット「丸山 毅」がグライダー世界選手権に再び挑戦します！

TEAM MARU リーダー 赤石京子
TEXT：河村 大（TEAM MARU 広報）

丸山のキャリアと TEAM MARU

みなさんこんにちは。私たちは TEAM MARU（チームマル）と申します。グライダー世界選手権に参戦するパイロット 丸山 毅（まるやまたけし）をサポートするために 2013 年から活動しているチームです。

丸山 毅 は グライダー歴 28 年、総飛行時間約 3,700 時間、総クロスカントリー距離 15 万 km のベテランです。サラリーマン生活を続ける傍ら日本代表として活躍し、グライダー日本滑空協会の理事、国際滑空委員会の日本副代表委員などを務め、所属する日本グライダークラブでも理事やチーフインストラクターといった役職に就き、パラレルキャリアで活躍中の 51 歳です。

グライダー世界選手権への出場は 1999 年の第 26 回ドイツ大会から。その後 2008 年の第 30 回ドイツ大会、2014 年の第 33 回ポーランド大会、2018 年第 35 回チェコ大会に出場、27 位という最高成績を残しています。また、ヨーロッパ選手権にも 2 度出場し、最高位は 19 位相当。そのほかポーランド、ハンガリー、チェコ共和国、ドイツといった国々のナショナル大会・地方大会にも出場し、最高で 7 位を獲得しています。

チームのメンバーは 9 名。大会中地上でサポートを行うグランドクルーを中心に、ボランティアで集まった集団です。チームビジョン（野望）は「グライダーをもっと多くの人に知ってもらい、楽しんでもらいたい！」ということ。チームとして「勝利」「普及」「育成」というトリプルミッションを掲げ、具体的には以下のような目標を持って活動しています。

- **「勝利」　世界のトップ 10 入り**
- **「普及」　グライダー認知アップ！**
- **「育成」　若手を世界へ！**

グライディングのガラパゴス化から脱却したい！

日本ではグライダーはまだまだマイナーなスポーツです。丸山の後に続いて世界へ打って出ようとする若者が現れません。海外との交流も限られ、世界の現場で日々進化を続けているフライトメソッドや新しい操縦教育方法が積極的に導入されることもありません。全日本クラスの競技会すら行われなくなって久しく、最前線で切磋琢磨されるべき「スポーツ」としての技術的アップデートが行われていません。有り体に言えば「ガラパゴス化」が進んでいるのです。

丸山はこの状況に警鐘を鳴らしています。

インターネットの登場で世界との距離は縮まっているはずなのに、ことソアリング技術の「学び」という観点から見ると、日本と世界の精神的な距離はむしろ増えているように感じます。もちろん、新しいものを取り入れようとすれば古い理論や価値観を変えなければならず、その作業にはかなりの覚悟と労力を必要とします。実際のところ、新しい知見や「学び」を外に求めないほうが楽に過ごすことができるのです。

でも世界は待っていてはくれません。ヨーロッパでは新しいフライトメソッドがどんどん標準化されていますし、教育方法も変わってきています。私たちがこのまま日本という島国の中だけで完結してしまっていては、世界との距離が広がっていることにすら気付けなくなってしまでしょう。

ブーカの空と今求められるスキル

世界は VUCA（ブーカ）の時代になった、と言われて久しいです。これは Volatility（変動性・不安定さ）、Uncertainty（不確実性・不確定さ）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性・不明確さ）という 4 つのキーワードの頭文字から作られた言葉ですが、現在の社会や経済環境が予測困難な状況に直面しているという時代認識を表した用語として知られています。

このブーカの時代にあって、今本当に求められているのは「前例にとらわれ考えることを放棄すること」ではなく、「前例のないところで考える力だ」と言われています。何をするにも「自分で考えること」が大切になっているのです。

丸山は「グライダーパイロットに求められるスキルは、まさにこのブーカの空を飛ぶ能力にある」と言い切ります。空には一度として同じ状況などなく、飛び方の 「答え」も毎回違ってきます。目の前で変化する状況に対処し続け、その中で最善の道を選び、前へ前へと進まねばなりません。

もちろん、「場周」や「曳航」など、グライダーのライセンスを取るまでの訓練にはちゃんと答え（型）が用意されています。でもそこから先、より高く、より遠くへ飛び、より楽しいクロスカントリーフライトを行おうと思ったら、自分の頭で考え、判断することが大切になります。その際、人に答えを求めてばかりいては上達は難しくなります。そして、その先にある「世界レベルの競技会で競い合う」というスキルに関して言えば、日本ではもはや限られた人しか持ち合わせていない、というのが現状です。

なぜ世界大会へ参加するのか？

グライダーは競技会が全て、ではありません。でも、同条件下でライバルと切磋琢磨する中で得られる 「気づき」 はグライダースポーツの発展に計り知れない恩恵をもたらします。ほかの人より 1 秒でも早いスピードを競う現場では、変わり行く天候への予測能力はもちろん、上昇気流の取捨選択からコース取り、クルーズスピードに到るまで全ての判断を瞬時に、そして最適にコントロールしていく必要があります。次々に変化する予測不可能な世界の中で、今できることに集中し、ありとあらゆる知見と情報を総動員して飛ばなければならないのです。そしてさらに、フィジカルな鍛錬から「前へ進む」意志力までもが強く要求されます。それは、究極に効率化されたクロスカントリーフライトと言っていいのです。

複雑で、曖昧で、常に変化する不確実な空を自分の判断で飛ぶチカラ。その能力レベルを他人と比較する中で順位としてわかりやすく教えてくれる場、それが競技会なのです。

そこで得られる最新の知見や、そこで飛ぶために行った対策や練習方法、そして海外遠征の方法そのものや各国のパイロットと交流する中で得られた情報などを、自らがその中に身を置くことで学んで行きたい。そして日本の空を飛ぶ若者のためにフィードバックしていきたい。フィードバックすることで日本のグライディングの飛び方、飛ぶ事への考え方を世界にあわせていけるように、**操縦教育にイノベーションを起こしたい！**と丸山は考えています。

操縦教育にイノベーションを起こしたい！

丸山は 2009 年からは若いグライダーパイロットへのコーチングを目的とした「Soarist ユースキャンプ」の開催に協力しています。

この「ユースキャンプ」の取り組みはとてもユニークです。期間中はひとりひとりの若者がそれぞれ１機のグライダーを占有することができ、何度でも何時間でも飛ぶことができます。気象条件を調べ変わり行く空の条件を肌で感じながら自分の判断で空へ飛び、クロスカントリーフライトしてくるのです。

ここでは何よりもまず 「自分で考えること」が優先されます。学生航空部の団体合宿生活では望んでも得られない条件の中で個々の可能性を引きだそうとしているのです。このユースキャンプはその後も継続的に続けられています。

さらに、今回の世界戦への参戦に際し、現地のグランドクルーとして２名の有志にご協力を依頼しました。吉岡利典さん（日本グライダークラブ・47 歳）と 市岡拓也さん（東京グライダークラブ・29 歳）です。

吉岡利典さんは先述した「Soarist」を妻の吉岡名保恵さんとともに創設された中心的人物です。若手パイロット育成の方法論を日夜語り合い、丸山と夢を共有しながらアクティブに活動されている、尊敬すべき仲間のひとりです。

市岡拓也さんとはこの「Soarist」の活動を通じて出会いました。ヒントを与えるとわからないことをすぐ調べ、学んで吸収し、自分なりの判断をし、実際に行動に移すことができる希有な若者です。丸山はその姿に「ブーカの空」を自らの力で飛び続ける可能性を感じ、前回に続いて今回の大会にもクルー支援をお願いしました。

これらチームメイトが、世界トップのアスリートがひしめく現場を目の当たりにするインパクトは計り知れません。この経験によって彼ら自身の中で化学反応が起こり、今後の活動にさらなるエッセンスが加わっていくことを願ってやみません。

世界選手権に向けた準備状況

前回 2018 年の世界選手権後、さらなる飛躍を目指して、2019 年からは新世代競技機 JS3 への乗り換え、海外での競技会への参加と練習を重ねてきました。

2020 年シーズンはコロナ禍で世界選手権も中止となり、海外での練習も出来ずじまいでしたが、ワクチン接種の進んだ 2021 年シーズンは 8 月にポーランドの大会で練習を行い、その後ナミビアで世界チャンピオンと合宿トレーニングを行って弱点を補強しました。

そして 2022 年シーズンは板倉滑空場での練習の後、4 月にハンガリーの競技会に参加、5 月にはチェコ選手権に出場し、トレーニングを行って参りました。

グライダー世界選手権とは？

ここで、グライダー世界選手権とはどんな大会なのか、どのくらいの国とパイロットが集まって何を競うのか、簡単にご説明いたしましょう。

第 37 回グライダー世界選手権大会について

■大会ホームページ
https://wgc2022.hu/
■開催場所：　ハンガリー セゲド飛行場　首都ブダペストから南に 160km、車で 2 時間程度
■大会期間：　7 月 23 日 ～ 8 月 6 日（15 日間）
■参加国数：　27 か国
■参加人数：　88 機 108 人
■開催クラス：　オープンクラス、20m クラス、18m クラス
■参加クラス、使用グライダー：　18m クラス、JS3 D-KSTM “AX”

TEAM MARU　世界選手権現地チーム体制

■遠征期間：　7 月 15 日 ～ 8 月 9 日（26 日間）

7/15	日本出発
7/18 - 7/22	練習期間
7/23	開会式
7/24 - 8/05	競技期間
8/06	閉会式
8/09	日本帰国

■遠征人数：　6 名

チームリーダー	赤石　京子	
パイロット	丸山　毅	日本グライダークラブ、Soarist
クルー	市岡　拓也	東京グライダークラブ
クルー	吉岡　利典	日本グライダークラブ、Soarist
クルー	高見　道明	TEAM MARU
広報クルー	河村　大	TEAM MARU

■必要経費：　合計 **¥4,100,000**

科目	金額	備考(1Euro=140 円)
往復航空券	¥1,350,000	6 名、空港往復、移動宿泊
滞在費	¥400,000	レンタルハウス 2 部屋
グライダーレンタル	¥880,000	21 日
曳航料	¥150,000	15 曳航
エントリー費用	¥150,000	
レンタカー	¥300,000	2 台
食費	¥200,000	自炊
その他機材	¥670,000	ソフトウエア、無線機、チームキャビン、チームウエア
チームキャプテン費用	¥0	チームキャプテン個人負担
合計	¥4,100,000	

１回の遠征でかなりの費用がかかることがお分かりいただけると思います。

実は日本代表といっても国からの支援があるわけではなく、実際に費用を捻出しているのはパイロットの丸山です。現地への慣熟やトレーニングも含め、遠征費用が大きな負担になっているのも事実なのです。

「ワクワクすること」が大切

とはいえ、本人はこれらの費用を義務感で捻出しているわけではありません。やはり、世界選手権に出場すること自体が楽しいのだそうです。想像するだけで心が躍り「この年齢でこれだけワクワクできることは他にない」からこそ出場しています。

では、なぜワクワクするのか？
それはズバリ　「無知の知」　を知ることにあると言います。

「今まで見えなかったものが見える！」
「できなかったことができるようになる！」

人生においてこれほど楽しいことはなく、体力が続く限りチャレンジしていきたい！ と彼は言います。

彼自身は、決して生まれ持ってのアスリート、というわけではありません。学生時代の上達は 「並み」 より遅かったですし、緊張しやすいです。そして 「迷い」や「恐れ」、「逡巡」や「後悔」といった誰もが普通に持っている感情と日々戦っています。そして何よりも彼自身、自分の頭が固く、前例にとらわれやすく、チャレンジすること自体が苦手であること自覚しています。

でもだからこそ競技会に集中し、素の自分をさらすことで、今の自分を知り、未来の自分を高める作業にワクワクするのだ、といいます。そしてこの楽しさを、日本の若手にぜひ味わって欲しい！ できることならサポートしてあげたい！ と彼は願っています。

実のところ、世界選手権のことなど何も知らなかった丸山が欧州へ何度も遠征する中で得てきた知見、そして築き上げてきたコネクションは膨大です。その経験と資産を、彼は後に続く日本のグライダーパイロットに残そうとしています。

実務的な遠征の方法も継承したい

例えば機体の貸し借りひとつとっても、それはお金を積めばいい、という話ではないといいます。ヨーロッパはやはりファミリーの文化で、大切な趣味の道具をどこの誰とも分からない東洋人においそれとは貸してくれません。でも幾度ものヨーロッパ遠征を経て、彼自身が積み上げてきた認知度と信用によって、今では「丸山ならいいよ、貸してあげる」というパイロットが多く見られるようになってきています。それはこの先、国内の若手パイロットが遠征する際の道筋にもなり得るでしょう。「丸山の紹介ならいいよ！」とすんなり借りられる可能性も高いのです。

こういった海外遠征の経験や現地事情、そして文化すらも若手に継承していって欲しい、と願っています。

いかがだったでしょうか。今回は広く皆様からのご寄付を募り、世界選手権へ費用の一部として使用させていただくことにいたしましたが、私達 TEAM MARU は「勝利」「普及」「育成」という３つの目標に対し、これまで通り変わらぬスタンスで取り組み、チーム一丸となって世界選手権に参戦して参ります。大会期間中はホームページや SNS を通じて現地の情報を可能な限り迅速にお伝えする予定です。そしてより多くの方々にこの大会の魅力をお届けして参りたいと考えております。

チームにとって何よりも嬉しいことは、皆様からいただく応援メッセージの数々です。パイロットの丸山も、時間差こそあれ、全てに目を通し、必要あればご返信させていただいております。チーム一丸となって戦って参りますので、どうかご支援ご鞭撻のほど、よろしくお願い申しあげます。

■TEAM MARU ホームページ
http://maru-wgc.blogspot.jp/
■TEAM MARU フェイスブック
https://www.facebook.com/TeamMaru
■TEAM MARU ツイッター
https://twitter.com/teammarugliding
■TEAM MARU Instagram
https://www.instagram.com/teammarugliding/
■パラレルジャーナル様「やりたいことがあれば挑戦すべき！―世界大会出場のサラリーマン・グライダーパイロットが実践する仕事と夢の両立」　（パイロットインタビュー記事）
https://crowdworks.jp/p-journal/?p=1421

寄付への御礼のご案内

■5,000 円の寄付
・パイロット丸山からの御礼メール
・大会期間中の限定メールマガジン配布

■10,000 円の寄付
・パイロット丸山からの御礼メール
・大会期間中の限定メールマガジン配布
・TEAM MARU オリジナルステッカー 2022 バージョン
・秋に開催予定の報告会へのご招待

■30,000 円の寄付
・パイロット丸山からの御礼メール
・大会期間中の限定メールマガジン配布
・TEAM MARU オリジナルステッカー 2022 バージョン
・秋に開催予定の報告会へのご招待
・大会現地で入手可能なオリジナルグッズ（T シャツ等）※現地状況により変更の可能性もございます

■任意の額の寄付も受けつけております。
・別途ご相談ください

丸山さんの活動にご賛同戴ける皆様は下記フォームからお申し込みの上、

2022 年第 37 回グライダー世界選手権参加支援事業募集特定寄付金申込フォーム

リンク先　https://bit.ly/wgc2022maruyama

下記口座宛にお振り込み戴けますと幸いです。

振込先

みずほ銀行 新橋支店（普）1027085

（社）日本グライダークラブ

当クラブは公益法人の税額控除対象法人の認定を受けており、ご寄付には税の減免処置が適用されます。

具体的には(寄付金額※1 － 2,000 円) の 40% が 税額控除額となります。※2

※1 算出時の年間の寄付金額 は「同年の総所得金額等の 40%」を限度額とする。

※2 税額控除額は「その年の所得税額の 25%」を限度額とする。

皆様の寄付をお待ちしています！